

道議会開会



被災者の支援に全力

党議員団そろって宣伝

日本共産党道委員会と道議団は定例北海道議会開会日の27日朝、札幌市の道庁北門前で宣伝しました。

訴える(左から)佐野、真下、畠山、宮川、菊地の各氏=27日、札幌市

畠山和也前衆院議員と、真下紀子団長、菊地葉子、宮川潤、佐野弘美の各道議がマイクを握りました。道委員会勤務員がピラを配布すると、通勤を急ぐ道職員らが次つぎと受け取っていました。畠山氏は、与野党

の攻防がつづく出入国管理法改定案について

「まともな審議もせず押し通すことは許されない」と批判し、「市民と野党の共闘で安倍政権にかわる新しい政治をめざします。安心して暮らせる北海道をつくるためがんばる」と語りました。

北海道地震から2カ月半が過ぎ、寒い冬を迎える被災地。避難者の生活支援が必要だと

述べた畠山氏は、「共産党は国会、道議会、被災者の生活再建、地域の復興への支援を強めるよう求めてきた」と被災者に寄り添う活動へ決意を訴えました。

真下氏は、被災地の地元から要請があった仮設への家電3品(洗濯機、冷蔵庫、テレビ)への補助が道の補正予算で実現することになったと報告。「被災した住民を支援するとりくみこそ地方自治体として最も優先すべき課題です。住民の命と暮らし、財産を守るために全力をあげます」と訴えました。